



「春香る桜の下で微笑む患者さんのすがたに、ご家族やスタッフの顔もほころびます」（堺千代さん）

photo 藤田佳久

全員が大きな感動に包まれる「お花見」

ホスピスでは、季節の行事を提供している。その中でも「お花見」は毎年欠かさない、行事の一つ。介護タクシーに乗り、三〇分ほど遺愛学院に滞在して帰ってくる約二時間の「お花見」だが、懐かしい思い出話に花が咲き、新しい思い出作りの時間となっている。お花見担当のスタッフは、患者さんやご家族が不安なく出発できるように細心の注意を払って準備をしている。どの人がどのような状態で行くのか、どの時間帯がベストなのかを事前に検討して当日に臨む。その成果だろう、今回も予定

堺 千代・文
函館おしま病院
ホスピス病棟看護師長



福岡市出身。順正高等看護専門学校(岡山県)卒業後は岡山大学医学部付属病院消化器外科に勤務。その後九州で最初のホスピスが開設された栄光病院へ移り、同病院のホスピス病棟で9年間勤務する。平成15年函館おしま病院に赴任。平成16年には道南で最初の認定看護師(緩和ケア)となる。

通りに「お花見」は行えた。桜ヶ丘通りの桜を車窓から眺め、遺愛学院の校庭に降り、桜の花に触れたとき、自然とみんなが最高の笑顔となり、花冷えの空気がほんわかと温まる。一瞬でも病気の事や、病気からくる辛い症状を忘れ、自由な自分に戻れるそんな時間を「お花見」のときには感じられる。喜ぶ患者さんの姿を見て家族も私達も、そして介護タクシーの方々全員が大きな感動に包まれる。これからも、こんな幸せな時間を少しでも一緒に過ごせるようにと願っている。